

物
之
記



一 一

おもしろいさうな ぬ藤目のくさげ

一 一

詞

ひ行く光景のん 是の君を

皇帝の御意を御方さす

板も御君まつらわさうとた

ま—ま—ながり、みごをわもむ

形をもほ— 光— なまのふ

—の宮ろ— 空ぬの美人をほ折ふ

楊家の娘よ家日よはるき必を
楊女とてかうし然共さるる細
あけり馬冠り原ゆきまゝなり
しるる娘よはつたれり勢妙ひ
あふ魂魄乃あまこり成れり宗神
ものさるるよ位せと惣落下黄泉
まゝりみりせとむらゝる魂魄の

あまこり成れり人愛よこころ

遊草言よあまこり人離れは度

遊草言よあまこり人遊草く幼も

りあけり人りあまこり大台乃

あまこりあまこりも浪路を

わきりりあまのほろりあみえり

海山のくまをりあまの枕あふ

常世の國ははるみりわく

詞

わうたふ程小春葉字の美し

げはくくまくりやとみん

意

有るははるにほけき春葉のあ

みもはる宮殿想いと

力際もたふははるの

きなはる七夜をちわちめ

漢字の里乃程ひもはる

有様も是ははるにな

庭ははるあはるの

みもはるちるもはる

さ殿と家のははる

先は所は細はる

なもはるはるはる

三十一
さういふ山は春乃周よきに
なすやうに家此の故り所なる
ありはなほひとくぐりて葉の
下
縁の洞よひとりわ他世月影も
め家にかほりたもてかあ
まりいほろしへ屋ふ 唐乃
天子の勅乃使をさるるわ

三十二
玉妃いさちりま
かゝる唐乃使とけな
いまはるも九花の帳を
押のきく玉の着を
立出たは海 瓢ひさつ
利のりゆりせ 天上
御す那らのうらりかみし城

うの^{上句} 庭の勢勢くも 梨花一枝
雨を^二おひ^一と^三あ^二う^一ほ^三ひ^一の^二く^一
犬^二採^一の^三重^二葉^一子^三く^二飛^一が^三井^二未^一央^三乃^二
柳^三乃^一み^二と^一わ^三も^二襖^一中^三は^二の^一く^三
ま^三さ^二ら^一あ^三つ^二き^一ま^三や^二ら^一な^三子^二森^一盛^三の^二
形^三こ^二子^一な^三ま^二も^一ち^三ら^二と^一も^三わ^二や^一く^三
い^三ふ^二り^一と^三も^二さ^一ら^三も^二后^一宮^三世^二
ま^一く^一 一^一 時^一ふ^一も^一朝^一政^一
を^一こ^一た^一ら^一わ^一勢^一ひ^一ぬ^一ば^一り^一も^一や^一ら^一
彫^一ら^一せ^一勢^一ひ^一て^一は^一吹^一ひ^一ぬ^一う^一ら^一
清^一あ^一ら^一ま^一の^一さ^一ぐ^一は^一け^一心^一の^一ち^一も^一
あ^一や^一う^一る^一ん^一こ^一を^一た^一ま^一ひ^一て^一は^一
志^一の^一勢^一え^一道^一ら^一よ^一ま^一ら^一勢^一是^一ま^一ら^一
乃^一勢^一わ^一け^一染^一を^一見^一な^一ふ^一る^一た^一ら^一

いし詩

是らう有^上一^下形見よとそ^上玉の^下符

と^上出^下を^上か^下さ^上り^下あ^上ら^下ん^上た^下ひ

言^上形^下は^上い^下や^上と^下見^上ハ^下世^上中^下小

歌^上ひ^下さ^上ら^下き^上物^下な^上れ^下は^上心^下の^上く^下り

一^上世^下一^上竹^下ふ^上ら^下き^上持^下方^上と^下思^上と

人^上志^下は^上い^下ら^上ら^下わ^上竹^下の^上一^下言^上形^下美

あ^上ら^下さ^上ら^下を^上き^下ら^上に^下中^上あ^下ら

か^上ら^下く^上一^下種^上も^下あ^上ら^下わ^上な^下わ

思^上ひ^下ら^上り^下け^上れ^下あ^上も^下み^上き^下初^上秋^下の

七^上月^下乃^上燕^下一^上ま^下よ^上お^下ひ^上一^下言^上乃^下美

よ^上な^下天^上日^下あ^上ら^下は^上ひ^下り^上ま^下く^上冬

比^上城^下の^上香^下と^上彫^下ら^上世^下地^上一^下あ^上ら^下ん

那^上ら^下く^上冬^下を^上程^下乃^上枝^下と^上な^下ら^上せ^下と

摺^上り^下一^上子^下を^上び^下ら^上ら^下ふ^上持^下よ^上也

三二二 新語なきともいふ方も我らず成
三二二 後り取 ^上 世中びく
三二二 流轉を死のな〜ひらくを力
三二二 馬鬼入 ^下 魂ハ仙宮日
三二二 以とわけ ^下 城もと下城入
三二二 ひとわ ^下 細をま〜きま理も枝
三二二 くら ^下 了 ^下 大 ^下 ち ^下 ま ^下 ち ^下 色 ^下 を ^下 愛 ^下 ひ ^下 とも

三二二 心 ^下 の ^下 越 ^下 く ^下 忍 ^下 ぶ ^下 る ^下 法 ^下 の ^下 乃
三二二 阿 ^上 ふ ^上 せ ^上 哉 ^上 ね ^上 ず ^上 る ^上 後 ^上 更 ^上 新 ^上 人 ^上 や
^上 幸 ^上 地 ^上 三二二 是 ^上 は ^上 とも ^上 以 ^上 ひ ^上 る ^上 虫 ^上 船 ^上 乃 ^上 付 ^上 ひ ^上 下

三二二 悔 ^上 る ^上 とも ^上 お ^上 も ^上 り ^上 け ^上 ー ^上 き ^上 子 ^上
三二二 な ^上 を ^上 け ^上 り ^上 け ^上 なる ^上 尊 ^上 毛 ^上 心 ^上 引 ^上 新 ^上 兵 ^上
三二二 ま ^上 い ^上 な ^上 ま ^上 な ^上 ま ^上 ー ^上 小 ^上 三 ^上 重 ^上 乃 ^上 帯 ^上
三二二 ぬ ^上 くら ^上 わ ^上 あり ^上 ち ^上 も ^上 ち ^上 る ^上 奴 ^上 力 ^上 あり

ふ〜はる〜
ま〜あ〜

やあふをらひあ〜
笑や驕山

乃宮のしら月のやゆふのうい

お虫 つかさ〜
舞〜とて

あ〜も〜
袖乃

うもや〜
ひひ虫

あ破霓裳羽衣の曲うと流る

め家〜被〜
何うも夢幻の

あ〜も〜
あ〜小蝶ハ舞

あ〜
の春を

思〜ん〜
の春を

あ〜
の流轉〜

生死のな〜
あ〜

二十五の乃〜
あ〜

必滅の理も我む先上の
子衰むわひ跡の四州の横に
我州の子年はずは升るくちぬ
況きか不定跡をひなる子
たの跡なるきとる屋 多ゆも
これり久き上家の徳仙のあり
僅者乃ちが久あまをりるるり

人妻の生跡あふ楊家の流定
屋一那り跡とて志はひの
たの室一に君さるめさる
ほくひうたりの一后をみ
たぬをきまのひ侍者同記の
あつるひも跡はぬきん流
又う跡跡ふたしひとわの

二二二
 東宮ついでし水のおもひ
 かのほ遊乃毎まきりす
 上 見えわが志はふあつ
 せうもふも思ひ出ま
 おあきれ文月の七日乃
 かりと——腫語乃比
 ちとみ葉もくれくす
 二二二



二二二
 新装の篠乃ひとよの
 なるもえおしあなひ
 まーるや月がれほ
 世中よぬあのがる
 手世も人あたうひ
 うれとるも適きえぬ
 うきとく時ハ何あ
 二二二

なすわき枝　うの乃ぬ　うみ子
虫締　うりむじし女子り　ふら
まぢ　少神るん　志保　一　屋づく
あ　き昔の物換く　清くさけ
月のもう清わつひ乃　志る　一　流
の世さ　又たまらわ　了　暇　中　て
は　は　る　る　勅使ハ　お　は　の　の　海　里

なすわき枝　うの乃ぬ　うみ子
虫締　うりむじし女子り　ふら
まぢ　少神るん　志保　一　屋づく
あ　き昔の物換く　清くさけ
月のもう清わつひ乃　志る　一　流
の世さ　又たまらわ　了　暇　中　て
は　は　る　る　勅使ハ　お　は　の　の　海　里



